

【出題意図】

外国語試験の主たる目的は、看護学に関連する基礎的な知識・技術及び専門科目の履修に必要な語学力を問うことである。看護学研究科では健康増進や疾患のリスク及び看護等に関する研究論文を読解することが求められる。そこで、長期にわたる高齢者の健康状態の変化に関する研究結果をまとめた記事を引用し問題を作成した。

【模範解答】

問 1. 下線部①～⑥の日本語訳を記述しなさい。

- ① 最近の調査によると、日本の高齢者は健康面で「若返っている」傾向にあり、これはおそらく前の世代よりも社会活動が活発になっているためだと考えられる。
- ② 調査の結果、最近のグループでは、以前のグループに比べて長期介護の必要性が 25～27%減少していることが分かり、この変化は社会的な機会の増加に起因するとされた。
- ③ 参加自治体に居住する 65 歳以上の高齢者のうち、要介護と診断されていない方全員を対象に、健康状態や生活状況に関する調査を実施した。
- ④ これらの調査結果は、高齢者が「若返っている」、つまり歩行速度や握力などの身体能力を前の世代よりも良好に維持していることを明らかにした以前の研究結果と一致している。
- ⑤ 社会活動が活発な高齢者は介護者の援助を受けずに生活する可能性が高いと考えられるため、研究チームはアンケート調査時点で 2 つのグループ間の社会化の程度に差がなかった場合にどうなっていたかを予測した。
- ⑥ 研究チームは、社交の機会が増え、散歩したり、出かけたり、友人と会う頻度が増えたことが、若い高齢者の人口増加に寄与していると結論付けた

問 2. 以下の a.b について、本文の内容と一致しているものには○、一致していないものには×を、解答欄に記入しなさい。

a	b
×	×

<全文訳>

最近の調査によると、日本の高齢者は健康面で「若返っている」傾向にあり、これはおそらく前の世代よりも社会活動が活発になっているためだと考えられる。

これらの調査結果は、全国の高齢者の健康状態を調査するために設計された日本老年学的評価研究（JAGES）から得られたものである。

この研究は、6年の間隔を置いた2つの高齢者グループを追跡し、初期のグループと後期のグループの間で介護支援の必要性が変化したかどうかを調べた。

調査の結果、最近のグループでは、以前のグループに比べて長期介護の必要性が25～27%減少していることが分かり、この変化は社会的な機会の増加に起因するとされた。

6年間でリスクは低下

最初のグループ研究は2010年度に開始された。

参加自治体に居住する65歳以上の高齢者のうち、要介護と診断されていない方全員を対象に、健康状態や生活状況に関する調査を実施した。この対象者に対する追跡調査は3年間継続された。

2回目のグループ調査は、2016年度から同じ町で同様の方法で実施された。

2010年度の調査には合計23,000人の住民が含まれ、2016年度の調査には26,000人が含まれた。

研究チームは、追跡期間中に要介護2以上と分類された人数を追跡調査した。その後、2つのグループ間の違いと、それぞれの結果の相違を分析した。

調査結果によると、学歴や病歴などの影響を除いた場合、2016年度の調査では65～74歳の高齢者が介護を必要とする可能性が2010年度の調査より25%低いことが示された。

75歳以上では、2016年度のグループで介護が必要になるリスクが27%低下した。

これらの調査結果は、高齢者が「若返っている」、つまり歩行速度や握力などの身体能力を前の世代よりも良好に維持していることを明らかにした以前の研究結果と一致している。

最近の調査では、長期介護の必要性についても同様の傾向が見られることが確認された。

社会活動が鍵

社会活動が活発な高齢者は介護者の援助を受けずに生活する可能性が高いと考えられるため、研究チームはアンケート調査時点で2つのグループ間の社会化の程度に差がなかった場合にどうなっていたかを予測した。

この計算で考慮された社会活動には、仕事、趣味やスポーツの集まりなどが含まれた。

研究チームはまた、歩行時間や外出頻度など社会参加に関する指標は同じであると仮定した。

分析結果によると、両グループに同じ量の社会交流の機会が与えられていれば、介護の必要性は同じであったであろうことが示唆された。

研究結果をまとめた日本福祉大学の渡辺亮太主任研究員（社会疫学）は「高齢者が社会参加しやすい環境を整備することで、年齢に関わらず『若々しく』いられる人が増える可能性がある」と述べた。

調査対象者の就業者の割合は、65～74 歳、75 歳以上ともに 2010 年度群より 2016 年度群にかけて増加した。

地域団体に参加している人の割合は 75 歳以上では増加したが、65～74 歳では減少した。この世代の就労者が増えたためとみられる。

研究チームは、社交の機会が増え、散歩したり、出かけたり、友人と会う頻度が増えたことが、若い高齢者の人口増加に寄与していると結論付けた。